



蚕から認知症治療へ

鈴木名誉教授(岩手大)ら解明

岩手大名誉教授で同大発のベンチャー企業バイオコクーン研究所(盛岡市)の鈴木幸一所長(69)らは、蚕のさなぎを宿主とする「カイコ冬虫夏草」を活用し、認知症の改善につながる機能性食品や治療薬の開発に取り組んでいる。老化した脳の記憶中枢・海馬を修復する物質がカイコ冬虫夏草に含まれることをマウスでの実験で明らかにしたとして、創薬専門誌や学会誌などに論文を発表。高齢化社会を迎える認知症患者の増加が懸念される中、「昆虫パワー」を活用した創薬的可能性を探る。

冬虫夏草に修復物質

創薬などの可能性探る

カイコ冬虫夏草を人工栽培

培していいた福島県の東白農産企業組合(吉田大信代表理事)と、昆虫バイオテクノロジー研究をライフワーカークリークにする鈴木所長が共同研究。両者が4月に合流し、同研究所を設立した。

カイコ冬虫夏草の抽出物を老化したマウスに与えたところ海馬の傷が修復。行動実験の結果、内蔵機能の向上、疲労回復などに効果があるといわれる。



カイコ冬虫夏草(バイオコクーン研究所提供)



冬虫夏草

冬虫夏草 昆虫に寄生し、その栄養分を摂取して育つキノコの一種。アミノ酸などの栄養素が豊富に含まれ、中国では古くから不老長寿滋養強壮の漢方薬として用いられてきた。免疫力や呼吸器、内蔵機能の向上、疲労回復などに効果があるといわれる。

マウスの記憶力が回復し、

カイコ冬虫夏草に海馬修復因子が含まれることが分か

ったという。

鈴木所長らは3年間かけ

て海馬修復因子の構造を解

明。脳の神経細胞に栄養を

与える栄養細胞に作用し、

傷を修復するとみられる。

今後は海外企業との共同研

究も視野に入れ、3~4年

内で100人以上の試験を

行う見通しだ。

同研究所は桑、綿、蚕な

どの機能を科学的に解明、

商品化し、新たな養蚕ビジ

ネスとして発信する「養蚕

イノベーション」を提唱。

鈴木所長は「もう一度自

然や先人の知恵に学び直

し、養蚕業で健康寿命の延

伸、医療費削減に挑みたい」

にもつながるという。

鈴木所長は「もう一度自

然や先人の知恵に学び直

し、養蚕業で健康寿命の延

伸、医療費削減に挑みたい」

と強調する。

「養蚕イノベーション」は貴重な養蚕技術を守り、地域に新たな産業を生むこと

も重要な効果だ。現在は500戸ほどまで減少。

桑のアンチエイジングや免

疫向上の効果、綿の脳機能

向上や毛髪劣化の回復効果

を発見し、桑茶や健康サプ

リメントを販売することで、各地の関連産業を支援

している。